



赤い羽根
福祉基金

高校生のがんや入院、
長期医療のこと
知ってみませんか

病気療養中の高校生を応援する 支え合い井戸端セミナー

あなたにも
できることが
きっとある

愛知会場

子どもと大人の狭間で、支援の隙間にいる病気療養中の高校生がいる
ことを知っていますか？

まずは知ってもらうこと。そこから支援は始まります。

今、病気と闘っている高校生はもちろん、あなたの近くにいるあの子が、今後、もし
かしたら支援を必要とするかもしれません。

そんな、高校生への支援を考えるセミナーです。

開催日時

2026 **3/8** *Sunday*
シンポジウム 13:00~15:00
11:00~16:00

会場

愛知県産業労働センター ウィンクあいち 会議室 1001
(〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

※会場内で飲食店・展示・紹介コーナーのイベントも同時開催

参加
無料!!

↓ 申込はコチラ ↓



※オンライン参加はありません

先着
100名

※満席時は立見にて当日参加可

ロボットで社会参加フェア

11:00~16:00

遠隔社会参加に向けた
ゲーム化ロボット操作システム



名古屋大学小川研究室



シンポジウム

13:00~ 第1部

まずは知ろう



城西国際大学大学院 在学：岡嶋 哲哉

当事者による体験紹介

治療中でも学びを得られる環境を

2



音楽社会活動家：大山 智現

きょうだい児の想い

遺された家族だから出来ること。
一歩、踏み出せば世界は変わる！

4

未来 ISSEY：吉田 ゆかり

友達・学び・希望

- 高校生の今を支える大切なこと -

1

養護学校教員：藤原 嵩大

特別支援学校の先生の想い

病気療養中の高校生への教育に
どんな意味があるの？

3



パネルディスカッション（質疑応答）

14:00~ 第2部

愛知の取り組み

認定 NPO 法人
あいち骨髄バンクを支援する会 水谷 久美

支援者の取り組み（骨髄バンク）

つながる「いのち」、つなげる「いのち」
～いのちのバトンリレー～

2

【招待講演】名古屋大学大学院
工学研究科助教 窪田 智徳



遠隔社会参加に向けた ゲーム化ロボット操作システム

4

名古屋医療センター小児科：前田 尚子

医療者の取り組み

愛知県における病気療養中の
高校生の教育支援のあゆみ

1



一般社団法人
仕事と治療の両立支援ネットブリッジ 服部 文

支援者の取り組み（両立支援）

社会に出る前にがんを経験した人の就活支援

3



パネルディスカッション（質疑応答）

◆ 飲食・展示・紹介コーナー ◆

11:00~16:00



レモネードスタンド



和紙ワークショップ



珈琲 × 社会貢献

城東ライオンズクラブリリアン支部・レオクラブの皆さまによる
小児がん支援のレモネードスタンドをはじめ、
雪月風花さんの和紙を使ったワークショップ・製品販売、
国産コーヒーと社会貢献を結びつけたコーヒー「SaiSai」、
病気が困難と向き合った子どもたちの絵本・絵・ストーリー展示、
あいち骨髄バンクを支援する会の皆さまによる骨髄バンクの紹介ブ
ースなど、
さまざまな体験と出会うブースが並びます。

絵本



くまのマイナド
グレース・マクドナルド著

未来 ISSEY



山口オル & うしだなみこ



ロボットで学校体験フェア 未来ISSEY



- ・ロボットを実際に操作！
- ・遠隔でロボットを使い、学校に行く体験！
- ・ロボットで修学旅行に参加した
お子さん・保護者と会話！



「病気で悩む高校生へ一支援たい仲間が、ここにいる」

応援団長メッセージ

名古屋城東ライオンズクラブリリアン支部



未来 ISSEY の活動に深い敬意を表しま
す。高校生が病気と闘いながらも学び
続けることは、決して一人ではできな
い挑戦です。未来 ISSEY の皆さまが紡
いでこられた支援の輪は、多くの家族
や仲間の希望となっています。

応援団長メッセージ

認定NPO法人
あいち骨髄バンクを支援する会 事務局長 水谷久美



日本骨髄バンクの普及啓発・ドナー登
録推進活動や、患者と家族の支援活動
で課題となった高校生の学習環境。高
校生の院内学級が整っていない中、「学
び」について置き去りになってはいな
いか。現状を知り、私たちは、社会は、
今後どんな支援をしなければならない
のか。宝である子どもたちの将来を今
一度一緒に考えていきたいと思います。

主催者メッセージ

NPO法人 未来 ISSEY 代表理事 吉田ゆかり



私の息子は、小学生のときに横紋筋肉
腫という小児がんを経験しました。そ
の経験を通して、学ぶことを続けられ
なかった高校生たちにも出会いました。
「学びたい」という思いは、治療後の自
分の未来を信じているからこそ生まれ
ます。知っていれば守れること、行動
できることがたくさんあります。どう
か、応援をよろしくお願いいたします。